

上川淵 地下 マップ

◆縄文人の活動あと

④西善尺司遺跡 / ①山王若宮V遺跡

西善尺司遺跡では縄文人が石器を作製した作業の跡が見つかりました。石の洞片(はくへん)を接着すると、3つのままで復元されました。また、山王若宮V遺跡では、上川淵地区で唯一の縄文時代の住居跡が見つかっています。前橋市域における縄文人の活動を知るうえで貴重な発見となりました。

西善尺司遺跡 / 縄文遺跡



剖片を接合したもの



縄文時代中期の住居
山王若宮V遺跡

◆弥生のムラ

①櫻島川端遺跡

3世紀後半に噴火した浅間山の降下物(As-C軽石)に覆われた水田跡と弥生時代後期の住居が見つかりました。住居の存在から、水田は弥生時代から開かれていた可能性もあります。



As-C下水田
櫻島川端遺跡



【参考】弥生のムラの模型
群馬県立博物館提供

◆調査で発見された屋敷跡

④前田遺跡

堀を含めて一边が48m前後の正方形の屋敷跡が見つかりました。堀跡から出土した遺物から、屋敷は14世紀に造られ、15世紀にも存在していたことが分かりました。この間、堀の埋め戻しや新たな掘削により、3度、構造を変えていました。

写真提供 / 舌島農

◆地鎮の折りを込めて



中内村前遺跡

寺院があったと伝えられている場所で、室町時代の脚跡の跡から、墨書き石が見つかりました。全面に文字が書かれていますが、内容の解説ができません。寺院遺跡の発掘により、地前に関する遺物が出土する事例があり、この墨書き石も架橋に関わる地鎮祭に伴い埋められた可能性があります。

写真提供 / 舌島農

*本刊行の免責条項を参照
西善文化研究所 全国遺跡情報
観覧からダウンロードすることができます。



◆古墳時代になって突然出現した「周溝をもつ建物」

④中内村前遺跡

この建物は、弥生時代から古墳時代への移行期に建てられたもので、それ以前は群馬県において見られないものです。北陸地方や南関東地域の特徴を持つ土器が出土していることから、これらの地域から建築の工法も伝えられたのでしょうか。



推定復元 (奥高田文化財研究会・山内村立歴史博物館)

◆古墳人の髪型

④朝倉工業団地遺跡群第6

男子人物埴輪の美豆良(みずら)が見つかりました。髪を耳の前あたりでひもでくっつけて留めた髪型で、下げみずらは、身分の高い男のものでした。



【参考】帽子をかぶる男子
写真提供 / 朝倉市立歴史博物館

◆古墳時代前期の墓と祭祀

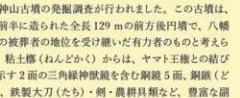
④西善尺司遺跡

微高地にひしめきあう14基の方形周溝墓とそこに供えられた祭祀用の土器が見つかりました。この墓が造られた時期は、県内最古の前方後方墳・後円墳である八幡山古墳・前橋天神山古墳にわずかに先行します。この地域一帯は、集落の出現から一定期間が経過したのち、社会基盤が成立し、古墳築造という大事業を成し遂げたと理解することができます。



正立丘地域のむら遺跡地盤文化財研究会

◆東日本を代表する前期古墳



前橋天神山古墳

昭和43年、住宅団地造成により消滅の危機に瀕して前橋天神山古墳の調査が行われました。この古墳は、4世紀前後に造られた全長129mの前方後円墳で、八幡山古墳の被葬者の地位をけり聞いた有力者たちと考えられます。粘土勝(ねんどかく)からは、ヤド王塚の縁の結び付きを示す2面の三角錐形獸頭を含む銅鏡5面、銅鏡(どうじょうく)、鍛冶大刀(たたら)、劍・農耕具類など、豊富な陪葬品が出土しました。粘土勝を含む後円部の一部のみが現地保存され、主な出土品は東京国立博物館に収蔵されています。



この地域の有力者が埋葬した粘土勝(左)と銅鏡の出土状況(右)

◆古墳時代末期の居館

④広瀬木ノ宮遺跡

前方後円墳が造られなくなる7世紀代の独立柱建物(ほたてばしらしたもの)跡、堅穴埋物跡、溝跡などを見つかりました。平行する2条の溝跡内に柱跡と同に向きの獨立柱建物跡が配置されており、「居館跡」の可能性が想定されます。「朝倉君」のような有力者の館の一部だったのでしょうか。



【参考】豪族居館の模型
群馬県立博物館提供



中内村前遺跡7区

中内村前遺跡3区

◆ドローン空撮 ◆西善福縁遺跡

西善町で見つかった、1108年噴火の浅間山火山灰に覆われた平安時代の水田遺跡を空からご覧いただけます。

